農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	柵野	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業者が主となって担う。 【主要作物】水稻、飼料用米、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業者が主となって担っていく。 【将来の主要作物】水稻の栽培を行っていく。有機農業を取り入れる。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	21.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	18.4 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	3.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
できる限り現状を維持しつつ、耕作が困難な農地が出た際には、地域の担い手を中心に集積していく。集約化を進めるためには、基盤整備を行い農地の条件を整える事が必要。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	-	☐	③スマート農業	-	☐	④輸出	-	☐	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	☐	⑧農業用施設	-	☐	⑨耕畜連携	-	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①電気柵等の対策を実施している。②完熟堆肥など有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進する。⑦多面的機能支払交付金を活用し、シバザクラの植栽、防草シートの設置、排水路の清掃、ブロックの補修、農道の整備等を行う。⑩直売所を利用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農している。今後も継続していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	稲津	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業者が主となって担う。 【主要作物】水稲、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進み、70歳以上の耕作者の農地が集落の4割程度を占めている。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業者を中心に後継者のいない農業者の農地を集積していく。 【将来の主要作物】 水稲の栽培を行っていく。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	56.4 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	43.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	13.3 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落内で話し合い、地代などの地域内の耕作条件を統一し、エリアごとに受け手に農地を配分することが望ましい。担い手不足のため、集落全域での集約化は難しい状況だが、後継者がいない農地が出てきた際には、現在の集落の担い手への貸付けを基本とし、作業効率に配慮しながらまとまった農地を貸付けするようにする。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
田植え、収穫、農薬散布を委託していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。⑩直売所を利用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農している。今後も継続していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	荒木新保	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」に位置付けられている認定農業者などが主となって担う。 【主要作物】水稲、麦、飼料用米、野菜の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできているが、後継者に継がせるだけの魅力がない。地球温暖化による天候異常の影響も大きい。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」に位置付けられている認定農業者などが主となって担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦、飼料用米、野菜の栽培を行っていく。 【その他】有機農業を取り入れる。自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	75.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	70.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	4.6 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。農業上の利用が困難な農地においては、粗放的な利用や保全管理を行っていく。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、各農家の耕作する農地が分散しており集約化を行っていく必要がある。集落や地域で話し合い、基盤整備や地代の統一をする事により集落内の耕作条件を整えることで、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、農業の生産効率の向上や農地集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化及び老朽化農業水利施設等の基盤整備も検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
現在農地を請け負っている集落内外の認定農業者に農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	○	②有機・減農薬・減肥料	○	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。②完熟堆肥など有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進していく。③自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。⑦家庭菜園を行っていく。また、多面的機能支払交付金を活用し、農道の草刈、排水の泥上げ、防草シートの設置等を行う。シバザクラ等の地被植物を植栽し、畦畔の草刈り作業の労働力を軽減していく。⑩単に農業経営の収支だけでなく、国が国土保全を真剣に考える必要があり、直売所を利用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農している。今後も継続していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	荒木
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業者や集落営農組織等が担っている。 【主要作物】水稲、大麦、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業者や集落営農組織等が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦の栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	41.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	39.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.2 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、集約化を検討していく必要がある。集落や地域で話し合い、地代など地域内の耕作条件を統一するなどし、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。⑦多面的機能支払交付金を活用し、用排水の整備を行っている。また、畦畔の草刈等の労働力を軽減するため防草シートを張っている。今後も継続していく。また、シバザクラ等を植栽し、畦畔の草刈り作業の労働力を軽減していく。⑩直売所を利用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農している。今後も継続していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	成願寺
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業法人が担っている。 【主要作物】水稲、大麦、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】農地は概ね集落営農法人に集積されている。将来に渡って営農の継続を図るため、後継者の確保・育成していく必要がある。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業法人が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦、大豆、地域の特産品目(そば)の栽培を行っていく。 【その他】有機農業を取り入れる。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	28.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	27.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.3 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落の農地は既に担い手が集積・集約化している。集落や地域で話し合い、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
既に集落全体を農地中間管理機構に貸し付けており、今後も継続して農地を貸し付け、農地の集積を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	-	☐	③スマート農業	-	☐	④輸出	-	☐	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	☐	⑧農業用施設	-	☐	⑨耕畜連携	-	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①今後対策を実施していく。②完熟堆肥など有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進する。⑦多面的機能支払交付金を活用し、草刈、用排水路の泥上げ、遊休農地の草刈、用排水路の補修、シバザクラの植栽等を行う。また、施設の点検・補修を兼ねながら、不法投棄の確認・防止を図る。⑩直売所を利用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農している。今後も継続していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	篠尾
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である集落営農組織が担っている。 【主要作物】水稲、飼料用米、その他野菜 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である集落営農組織が担っていく。 【将来の主要作物】 水稲、飼料用米、白ネギの栽培を行っていく。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	62.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	56.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	5.6 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落営農組織が後継者がいない農地を担う。後継者がいない農地が出てきた際には、作業効率に配慮しながらまとまった農地を貸付けするようにする。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で今後は集落営農組織に委託する。現時点では任意組織であるが、法人化した際には必要に応じて、中間管理機構をとした貸付を検討していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落内の営農組織に委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用するは予定なし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①中山間地域等直接支払交付金を活用し、農作物や農地法面の保護のため、定期的な点検や電気柵の設置を行い、獣害防止対策を実施する。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。また、老朽化してきた農業関連施設の補修にも努める。⑩直売所を利用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農している。今後も継続していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	高尾
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】地域の「農業を担う者」はいない。 【主要作物】水稲、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】個人農家が集落の農地を担っているが、年々減少している。農業者の高齢化が進んできており、後継者の確保が直近の課題となっている。当該集落の農地は少なく、傾斜地で圃場も比較的小さい。農地の管理には労力が必要となり、人足不足により不耕作地が増加している。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】個人農家が集落の農地を担っていくが、限界を迎えている。集落の農地の維持管理をどのようにしていくか、検討が必要となっている。 【将来の主要作物】水稲、その他野菜の栽培を行っていく。 【その他】直接支払交付金を活用しながら、農地の維持管理に努めていく。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	6.1 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	4.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	1.8 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
地域に担い手が耕作する農地はない。「農業を担う者」である個人農家が中心となって地域の農地を担っている。できる限り現状を維持し、後継者のいない農地が出てきた際には、集約化し貸し付けを希望する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①中山間地域等直接支払交付金を活用し、集落周辺に防護柵を連携して設置し、鳥獣害を減少していく。また、既荒廃農地を協定農用地に含めない場合には、協定農地に悪影響を与えないように草刈り、防虫対策等の保全管理を行う。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	前波、宿布	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である集落外の認定農業者が担っている。 【主要作物】水稲 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である集落外の認定農業者が担っていく。 【将来の主要作物】水稲の栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	12.1 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	9.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.6 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落の農地は概ね集約化できている。今後も基盤整備を行い農地の条件を整えながら可能な限り集約化していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①集落周辺に防護柵を連携して設置し、鳥獣害を減少していく。⑦多面的機能支払交付金を活用し、畦畔の草刈りを実施していく。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	一乗地区(浄教寺、東新、鹿俣、西新、安波賀、安波賀中島、城戸ノ内)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【主要作物】水稲、その他野菜</p> <p>【農業者】浄教寺、鹿俣、西新は、「農業を担う者」である個人3経営体やその他個人農家が担っている。安波賀、安波賀中島は、「農業を担う者」である個人2経営体やその他個人農家、集落外の認定農業法人1経営体が担う(1500㎡以上の農地のみ受け入れ)。東新では50代2名、60代3名、70代1名の6名が水稲を栽培しており、地区内の1/3程度を「農業を担う者」である他地区の個人が栽培している。畦畔の管理が充分ではないため、畦畔の草が伸び景観が悪い状態である。城戸ノ内は、集落内の畑等を維持している。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】浄教寺、東新、鹿俣、西新は、「農業を担う者」である個人3経営体やその他個人農家が担っていく。安波賀、安波賀中島は、「農業を担う者」である個人2経営体やその他個人農家、また、集落外の認定農業者(法人)1経営体が担っていく。東新では、地区内での離農者のたについては、出来るだけ地区内農業者で請け負う方向で話をしている。城戸ノ内は、個人ごとに集落内の畑等を維持する。</p> <p>【将来の主要作物】水稲、野菜の栽培を行っていく。土地利用型作物以外に収益性の高い園芸作物の生産に取り組む。</p> <p>【その他】担い手を中心に、機械利用や肥料・農薬等購入の共同化を図る。城戸ノ内は、集落内の畑等の維持に努めていく。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	61.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	51.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	9.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
できる限り現状を維持し、後継者のいない農地が出てきた際には、受け手の耕作条件に配慮しながら「農業を担う者」に耕作を依頼することで集約化し貸し付ける。 農業従事者が減少していく中で、生産組合設立の意向があるものの、進んでいない。後継者の確保についても検討していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
当地区は傾斜のきつい中山間地であり、大型農業をなかなか望めない。地区内の田は、ほとんどが1～2反の田であり、田を大きくすると、畦面も非常に大きくなることから、土地改良区でも基盤整備は計画されていない。現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
できる限り地区内で担い手を育成していく。集落営農組織を立ち上げ地域の農地を担っていくことも検討している。必要に応じて、集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
浄教寺：農薬散布 東新、安波賀中島：収穫、農薬散布 鹿俣、西新、安波賀、城戸ノ内：現時点で活用の予定はない。検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①電気柵、草管理、防護柵等の対策を実施していく。平成24年に安波賀町鳥獣害対策協議会及び安波賀中島町鳥獣害対策協議会、平成25年に鹿俣町鳥獣害対策協議会を設立しており、地域ぐるみで電気柵等の維持管理や捕獲柵の見廻りや埋没の協力等を行う。⑦鹿俣：保全・管理を行っていく。一乗地区：多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。シバザクラ等の地被植物を植栽し、畦畔の草刈り作業の負担を軽減する。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。
--

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	東郷地区(東郷二ヶ、福田、上毘沙門)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】集落営農組織や集落外からの認定農業者、認定新規就農者等が担っている。 【主要作物】水稲、そば、その他野菜 【その他】 農業者の高齢化が進んできており、後継者の確保が課題となっている。福田:後継者がいない耕作者が管理を維持していくしかない。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】集落営農組織や集落外からの認定農業者、認定新規就農者等が中心になって担っていく。 【将来の主要作物】水稲とその他の転作作物等の作付けを行っていく。東郷二ヶ:景観植物、有機農業を行っていく。 【その他】自動走行農機具、農業用ドローンの導入が必要と考え、他地域と共同で利用していく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	31.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	21.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	9.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手に農地を集積・集約化していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
東郷ニケ:ドローンでの肥料散布を委託できないか検討していく。福田、上毘沙門:活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①今後被害状況によって対策を実施していく。②東郷ニケ:今後有機農業を取り入れる。上毘沙門:完熟堆肥などの施用によって、環境保全の営農活動を推進していく。③東郷ニケ:自動走行農機具、農業用ドローンの導入が必要と考え、他地域と共同で利用していく。⑦東郷ニケ:景観植物の栽培を行っていく。上毘沙門:多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。シバザクラ等の地被植物を植栽し、畦畔の草刈作業の労働力を軽減していく。⑩上毘沙門:キュウリ・トマトなどの野菜を直売所に拠出する。その他:直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	小安、南山
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】「農業を担う者」である集落営農組織と認定農業者1経営体が担っている。
 【主要作物】水稻、大麦、その他野菜の栽培を行っている。
 【その他】 農業者の高齢化が進んできており、後継者の確保・育成が課題である。地域は水に恵まれた土地であり、おいしい米づくりに取り組んでいる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】「農業を担う者」である集落営農組織と認定農業者1経営体が担っていく。
 【将来の主要作物】 水稻(主食用米)、麦(大麦)、大豆、地域の特産品目(ソバ)の栽培を行っていく。
 【その他】自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。米、麦等の土地利用型作物以外に、収益性の高いキャベツの生産に取り組む。また、有機農業を取り入れる。農業を継承した認定農業者を集落で支えるために助言を行うとともに、集団転作や多面的機能支払制度の活動等を集落で連携して実施する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	35.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	31.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	3.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。農振農用地内の営農計画書のない農地は、粗放的な利用または保全管理を行う農地とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落営農組織による共同化、または集落内の担い手への貸付により、後継者のいない農業者の農地を集積していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
必要に応じ農地中間管理機構を通し農地の貸借を行っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
基盤整備事業の活用など、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落の認定農業者を中心に、集落内で農地の管理を行っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
収穫を委託していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	-	☐	③スマート農業	-	☐	④輸出	-	☐	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	☐	⑧農業用施設	-	☐	⑨耕畜連携	☐	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①電気柵、防護柵等の対策を実施している。鳥獣害対策協議会を設立し、地域ぐるみで電気柵等の維持管理や捕獲柵の見回りや埋没の協力などを行っている。②環境保全型農業直接支払交付金を活用したそばの有機栽培や米の特別栽培を実施する。⑦家庭菜園を行っていく。多面的機能交付金を活用し、草刈り、獣害の柵の設置、用排水の点検清掃、施設のメンテナンスを行う。⑧農舎の建設を検討していく。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	脇三ヶ
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業法人が担っている。 【主要作物】水稲、大麦、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】農地は概ね集落営農法人に集積されている。将来に渡って営農の継続を図るため、後継者の確保・育成していく必要がある。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業法人が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦、大豆の栽培を行っていく。 【その他】有機農業を取り入れる。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	51.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	49.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.1 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落営農法人に貸し付けることにより、農地を集積する。基盤整備を行い農地の条件を整えるなどして、引き続き担い手の作業効率に配慮しながら農地利用を行っていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用している。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	-	☐	③スマート農業	-	☐	④輸出	-	☐	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	☐	⑧農業用施設	-	☐	⑨耕畜連携	-	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

<p>①集落周辺に防護柵を連携して設置し、獣害を減少していく。②有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進していく。⑦家庭菜園を行っていく。防草シートを設置して、溝畔の草刈り作業の労働力を軽減していく。多面的機能支払交付金を利用して、草刈り、側溝及び防護柵を設置していく。⑩地元産の農産物を使ったイベントを実施し、集落内の活性化を図っていく。直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。</p>
--

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	中毘沙門
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】「農業を担う者」である認定農業法人が担っている。
 【主要作物】水稻、大麦、その他野菜の栽培を行っている。
 【その他】農地は集落営農法人に概ね集積されている。将来にわたって営農継続を図るため、後継者の確保・育成に取り組んでいく必要がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業法人が担っていく。
 【将来の主要作物】水稻、大麦、野菜の栽培を行っていく。
 【その他】地域独自のブランド米を生産・販売していく。トラクター、田植機、コンバイン等の自動走行農機具を取り入れていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	23.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	21.7 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	1.6 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落の農地は概ね担い手が集積・集約化している。集落や地域で話し合い、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
「農業を担う者」である認定農業法人に集積が進んでいる。今後も農地中間管理機構を通じた農地の集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
将来後継者が農業経営に取り組みやすい環境を整備していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
「農業を担う者」である認定農業法人を中心に地域の農業を担っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用予定なし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	○	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	-	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

②特別栽培農産物に主力を置き、環境保全農業を推進していく。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	下毘沙門
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業法人や認定農業者、個人農家が担っている。 【主要作物】水稲、花き、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業法人や認定農業者、個人農家が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦、大豆の栽培を行っていく。 【その他】園芸・野菜などを今後展開していく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	28.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	26.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.2 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落営農組織を立ち上げ、後継者のいなくなる状況を防いでいく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
草刈り、田植え、収穫、農薬散布を委託できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	○	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	-	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。また、耕作放棄地を削減していく。⑧ビニールハウスを活用する。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	下東郷、新村	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である集落営農組織及び認定農業者(法人を含む)が担っている。 【主要作物】水稻、飼料用米、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 農地は概ね集積されてきている。将来にわたって営農継続を図るためには、後継者の確保・育成に取り組んでいく必要がある。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である集落営農組織及び認定農業者(法人を含む)が担っていく。 【将来の主要作物】水稻、飼料用米、野菜の栽培を行っていく。下東郷:トマト栽培、有機農業を取り入れる。 【その他】集落内の小さな水田は地域グループが保全管理していく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	34.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	33.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.7 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。農振農用地内の営農計画書のない農地は、粗放的な利用または保全管理を行う農地とする。</p>

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落の農地は概ね集約化できいる。これ以上集約化を進めていくと農業者がさらに減少する可能性がある。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
圃場整備にとりかかり、後継者が機能する環境を整備していく。経営体育成基盤整備事業を活用し、暗渠排水路の設置、区画の拡大を行っている。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
下東郷:新たに集落外の担い手を受け入れ、農地の管理を委託していく。新規就農者の相談に応じたり、機械等のレンタルや空き家の紹介をすることで新規就農者を受け入れる。現在ある農区を利用して他集落と合同で管理していく。新村:集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
下東郷:費用がかかりすぎるため活用しないが、田植え・収穫・農薬散布の委託を検討していく。新村:活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	○	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	○	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。②完熟堆肥など有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進していく。⑦多面的機能支払交付金を活用し、用水の改修、花壇と農道周辺の防草シート張り、花の植栽等を行う。⑧下東郷:農舎の建設を検討していく。⑩土地改良区として3町内で先進地視察を行っており、今後も継続していく。花見や神社祭りを通し、地域コミュニティの形成を図る。直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	東郷中島
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当集落は伝統的に多くの自作農家で地域農業を守ってきたが、その半数の農家が70歳を超えている。集落の人口が25年で2/3に減少し、今後は集落の活性化、担い手の育成、獲得が必要である。
【農業者】10年後(2035年)で9農家が10ha耕作可能ではあるが、残りの農地の担い手が必要である。
【主要品目】水稲、麦、そばのみ
【集団化済】麦、そばの転作はブロックローテーションで町外の大規模経営体に作業委託している。
【機械の共同利用】自作農規模の機械の共同利用はできているが、大区画化農業に向けた対応は難しい。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【農業者】地域計画の啓発により就農を表明した30代を将来的な担い手として育成していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	32.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	31.4 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.9 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
育成していく30代の担い手に、高齢化に伴い離農する農地を自然集積していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
今後の協議で定めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
パイプライン化された揚水機場、かんがい施設の改修、長寿命化等の土地改良事業の負担に備える。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
今後の協議で定めていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
費用がかかり過ぎ、効果も期待できないため、活用の予定はない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	○	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。③自動走行農機具(トラクター、田植機、コンバイン)の導入を検討する。⑦環境保全活動が持続可能な地域づくりに取り組む。⑩高齢者が生きがいを持って地域づくりに参加できる取組みを行なう。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	円成寺
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である集落営農組織が担っている。 【主要作物】水稻の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んでいる。一方で、後継者でも楽に作業できる機械も出てきている。関係のある集落外の農業者に任せることで、結果的に耕作放棄地は生じていない。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である集落営農組織が担っていく。 【将来の主要作物】水稻の栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	17.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	16.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手が耕作する農地をできる限り集約化し、作業効率の向上を図る。基盤整備を行い農地の条件を整えるなどし、集約化を検討していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	上東郷
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】水田利用は、集落営農組織及び認定農業者が担っている。畜産(酪農)は、認定農業者が行う。
【主要作物】水稲、大麦、飼料用米の栽培を行っている。
【その他】今後も高齢化が進行してと予想されることから、将来にわたって営農継続を図るために、後継者の確保・育成に取り組んでいく必要がある。農地は、集落営農組織を中心に集積されつつある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】水田利用は、集落営農組織及び認定農業者が担っていく。畜産(酪農)は、認定農業者が担っていく。
【将来の主要作物】水稲、麦、野菜の栽培を行っていく。
【その他】自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	44.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	44.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.5 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落営農組織や認定農業者が耕作することにより、後継者のいない農地を集積していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
現時点では集落内で対応できているため、活用の予定はない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	○	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。③自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。⑦多面的機能支払交付金を活用し、防草シートを張ることにより、畦畔の草刈作業の労働力を軽減していく。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	深見、桂山、谷、栃泉、赤坂	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】集落営農組織が中心となって担う。 【主要作物】水稻、大麦、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 地区の農地は、集落営農組織や「農業を担う者」に概ね集積されている。個々の農業者の高齢化が進んできており、将来にわたって営農継続を図るため、今後も後継者の確保・育成に取り組んでいく必要がある。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】地域の集落営農組織が中心となって担っていく。 【将来の主要作物】水稻、麦、大豆、野菜の栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	102.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	93.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	8.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>深見、谷、赤坂: 農振農用地内の農地、および農業を担う者の位置づけのある農地を農業上の利用が行われる区域とする。 桂山、栃泉: 農振農用地内の農地、および農業を担う者の位置づけのある農地を農業上の利用が行われる区域とする。農振農用地内の営農計画書のない農地は、粗放的な利用または保全管理を行う農地とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落内で話し合い、基盤整備を行い農地の条件を整えるなどして、担い手が耕作する農地をできる限り集約化し、作業効率の向上を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
深見、谷：活用できないか検討していく。桂山：草刈りを委託できないか検討していく。栃泉：生産組合で対応しているため、活用の予定はない。赤坂：草刈りを委託できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①集落周辺に防護柵を連携して設置し、対策を実施していく。②赤坂：今後有機農業を取り入れる。③桂山、赤坂：自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。⑦栃泉、赤坂：保全・管理を行っていく。(深見、桂山、谷、栃泉、赤坂)：多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。⑩流通・加工に取り組み、6次産業化を推進していく。直売所を活用した地産地消に取り組み、活性化を図る。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	大町別所	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】「農業を担う者」である認定農業者1経営体および個人農家が担っている。
【主要作物】水稻(主食用、加工用、飼料用)、大麦、野菜の栽培を行っている。
【その他】個人農家ならびに認定農業者が主体的に農地の維持・管理を行っているが、地区全体で農業者の高齢化が進んでいる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】当面は「農業を担う者」である認定農業者1経営体ならびに個人農家が担っていくが、集落内で将来の農業の担い手他農地の集積、集約化について、引き続き協議していく。
【将来の主要作物】水稻(主食用、加工用、飼料用)の栽培を行っていく。
【その他】農作業の効率化に向けて、自動走行農機具等のスマート農業機械の導入を検討する。多面的支払交付金組織との連携を図り、農地の維持・管理に努めていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	30.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	29.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	1.2 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
今後の農業の方向性について集落内で話し合いを行いつつ、後継者のいない農地が出た際の受け手の確保や良好な圃場条件の確保等、集約化に向けた体制を整えていく。基盤整備や、地代などの耕作条件の統一により、エリアごとに受け手に農地を配分していきたい。
(2)農地中間管理機構の活用方針
現時点では集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用を検討していく予定である。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
必要があれば集落から担い手を確保し、農地の管理の委託を検討する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農薬散布を委託していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	○	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	○	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。③自動走行農機具等のスマート農業の導入を検討する。⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。⑧農舎の建設を検討していく。⑩集落内営農組織で野菜栽培に取り組み、直売所に出荷する。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	大町
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」が担うほか、後継者の農家が営農を維持している。 【主要作物】水稲、飼料用米、大麦の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。半数程度の農家の後継者が不在であり、その確保が課題である。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」が担うほか、後継者の農家が営農を維持している。 【将来の主要作物】水稲の栽培を行っていく。 【その他】機械、設備の充実を図る。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	18.7 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	16.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	2.4 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
当面の間は個人で管理することとするが、集積、集約化が必要になることを見こし、集落内で話し合いを行い、地代など地域内の耕作条件を統一する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。⑦多面的機能支払交付金を活用し、防草シート張り、花壇の整備、用排水や農道の補修、用水の泥上げ、圃場内の看板の維持管理を行う。また、暗渠の清掃を順次実施していく。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	下荒井	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」に位置付けられている集落営農組織が担っている。 【主要作物】水稲、大麦、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 地区全体で、農業者の高齢化が進んできている。集落営農に取り組んでいるが、オペレーターの数が少なく、決まった人に負担がかかっている。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」に位置付けられている集落営農組織が担っていく。 【将来の主要作物】 水稲の栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	22.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	19.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	3.2 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
(2)農地中間管理機構の活用方針 集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針 現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針 集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針 現時点では集落内で対応できているため、活用の予定はない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	-	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

⑦多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	小稲津	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】集落内外の認定農業者が担っている。 【主要作物】水稻、大麦、飼料用米の栽培を行っている。 【その他】農地は、認定農業者に概ね集積されている。将来にわたって営農継続を図るために、後継者の確保・育成や、農地の集約化などに取り組んでいく必要がある。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】集落内外の認定農業者が担っていく。 【将来の主要作物】水稻、大麦、飼料用米の栽培を行っていく。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	63.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	62.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.5 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、集落内で話し合い、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。担い手による集積化が終わっており、今後もその都度進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を汲み取りながら、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
あぜ取り等のほ場整備や暗渠排水の整備を行い、後継者が機能できる環境を整備していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

⑦多面的機能支払交付金を活用し、植栽・河川の清掃、農道の補修を行う。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	上六条
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である集落営農組織や集落外の認定農業者が担っている。 【主要作物】水稲、大麦、花きの栽培を行っている。 【その他】農地は、集落営農組織や集落外の認定農業者に比較的集積されている。将来にわたって営農継続を図るために、後継者の確保・育成や農地の集約化等に取り組んでいく必要がある。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である集落営農組織や集落外の認定農業者が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦の栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	38.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	37.4 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.9 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落の農地は概ね集約化されている。複数の農家が農地を管理しており、集落内で話し合い、担い手が耕作する農地をできる限り集約化し、作業効率の向上を図っていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
圃場整備を行い、後継者が継承できる環境を整備していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。集落(地域)外からの農業者を受け入れて、集落(地域)内農業者と共同で野菜栽培に取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農薬散布を委託していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。⑦多面的機能支払交付金を活用し、シバザクラの植栽、不法投棄の看板設置等を実施している。⑩集落外からの新規就農希望者を受入れ、集落内農業者と共同で園芸を導入し直売所を活用する。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	天王
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】「農業を担う者」である認定農業者が担っている。
【主要作物】水稲、飼料用米、大麦の栽培を行っている。
【その他】農地は集積されているが、農業者の高齢化が進んできている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業者が担っていく。
【将来の主要作物】水稲、麦、大豆、野菜、地域の特産品目の栽培を行っていく。
【その他】自動走行農機具、農業用ドローンの導入を検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	37.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	36.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.8 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、各農家の圃場位置は分散している。当面は現状維持を目標に経営し、今後後継者のいない農地が出てきた際には、担い手を中心に集積していく。基盤整備や地代の統一など地域の耕作条件を合わせ、エリアごとに受け手に農地を配分できる体制を整える。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用しない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①今後対策を実施していく。③自動走行農機具、農業用ドローンの導入を検討する。⑦家庭菜園を行っていく。多面的機能支払交付金を活用し、農地として維持していくために行う地域活動や地域資源の質的向上を図る活動を行う。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	上筋生田
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である集落営農法人や認定農業者7経営体、個人1経営体が担っている。 【主要作物】水稲、その他野菜の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできており、後継者の確保が課題となっている。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である集落営農法人や認定農業者7経営体、個人1経営体が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、野菜、甘しょの栽培を行っていく。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	43.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	42.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	1.0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、集約化を検討していく必要がある。集落内で話し合い、できる限り各農家が担う農地の団地化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
畦畔除去などのほ場整備にとりかかり、後継者が継承できる環境を整えていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

⑦多面的機能支払交付金を活用し、用排水路の清掃等、農道の砂利轆き、用排水路の法面への防草シート張り、幹線農道の舗装等を行う。⑩神社祭り、夏祭りを開催し、地域コミュニティ形成を図る。また、缶拾い、社会奉仕、神社の清掃、花壇の設置、墓地の清掃などを実施し、地域美化に努める。直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)	
地域名 (地域内農業集落名)	下六条	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

【農業者】集落内の「農業を担う者」が担っている。
 【主要作物】水稲、その他野菜の栽培を行っている。
 【その他】 農業者の高齢化や農機具の高騰、米価の低迷により離農が進み、土地持ち非農家が増加し、周辺集落への農地の貸付や作業委託が進んでいる。しかし、他集落の耕作者は適切な水管理、草刈りを行わず、共同防除にも参加せず、隣地の町内耕作者が困っているのが現状である。現在、集落として営農体制の維持のため、多面的機能支払交付金を活用して水管理、草刈り、防除等を行っている。しかし、交付金がなくなったり農地所有者が次世代になった場合、この営農体制を維持していく必要がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

【将来の農業者】集落内の「農業を担う者」が担っていく。
 【将来の主要作物】水稲、野菜、ばれいしょの栽培を行っていく。
 【その他】農地を貸し付ける農家に対し、農地中間管理機構を利用するよう働きかけを行い、集落内の10経営体(特に、下六条町の担い手)に集約する。また、省力化のため、農地所有者の了解を得た上で、畔の撤去等により大区画化を推進していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	47.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	43.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	4.7 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、集約化を検討していく必要がある。集落内で話し合い、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
省力化のため、農地所有者の了解を得た上で、畔の撤去等により大区画化を推進していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	-	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

⑦多面的機能支払交付金を活用して、用排水路の泥上げ、防草シートの設置、用排水路の補修、農道の草刈りを行う。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	下筋生田
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業法人や認定農業者、認定新規就農者が担っている。 【主要作物】水稲、大麦、飼料用米 【その他】 農業者の高齢化が進んできており、後継者の確保が課題である。</p>

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業法人や認定農業者、認定新規就農者が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、麦、大豆の栽培を行っていく。 【その他】有機農業を取り入れる。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	42.7 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	42.0 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0.7 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。農振農用地内の営農計画書のない農地は、粗放的な利用または保全管理を行う農地とする。</p>

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
複数の農家が農地を管理しており、集約化を検討していく必要がある。集落内で話し合い、エリアごとに受け手に農地を配分するなどし、できる限り各農家が担う農地の集約化を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体で農地中間管理機構を利用することは考えておらず、必要があれば個人ごとに利用していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落外から担い手を確保し、農地の管理を委託していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
現時点では集落内で対応できているため、活用の予定はない。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	-	☐	③スマート農業	-	☐	④輸出	-	☐	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	-	☐	⑧農業用施設	-	☐	⑨耕畜連携	-	☐	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①現時点で対策は必要ないが、今後被害状況によっては対策を実施していく。②完熟堆肥など有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進する。⑦多面的機能支払交付金を活用し、防草シートの設置、花ミズキや花の植栽、側溝の補修、土手の草刈り、パイプラインの塗装等の補修を行う。⑩地元産の農産物を使ったイベントを実施し、集落への集客を図る。流通・加工に取り組み、6次産業化を推進していく。直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村長

市町村名 (市町村コード)	福井市 (18201)
地域名 (地域内農業集落名)	下馬
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月 (第 1 回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>【農業者】「農業を担う者」である認定農業者が担っている。 【主要作物】水稲、飼料用米の栽培を行っている。 【その他】 農業者の高齢化が進んできている。</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>【将来の農業者】「農業を担う者」である認定農業者が担っていく。 【将来の主要作物】水稲、飼料用米の栽培を行っていく。 【その他】有機農業を取り入れる。スマート農業を導入する。</p>
--

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	13.1 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	11.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	1.9 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地、その他の区域については農業を担う者の位置づけのある農地を区域内とする。</p>
--

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
集落の農地は農業を担う者である認定農業者が集積・集約化している。
(2)農地中間管理機構の活用方針
集落全体を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を汲み取りながら、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
現時点で基盤整備事業の活用は考えていないが、集落で圃場条件の向上に向けた対策を検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
集落内の農業者が中心となって農地を管理していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
活用できないか検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

-	①鳥獣被害防止対策	○	②有機・減農薬・減肥料	-	③スマート農業	-	④輸出	-	⑤果樹等
-	⑥燃料・資源作物等	○	⑦保全・管理等	-	⑧農業用施設	-	⑨耕畜連携	○	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①被害が少ないため対策は必要ない。②完熟堆肥など有機物の施用によって、環境保全の営農活動を推進していく。⑦多面的機能支払交付金を活用し、畦畔の修繕等を行う。⑩直売所を活用した地産地消に取り組み、高齢者が生きがいを持って営農していく。